

∞ ボルールの屋根補修が終わりました ∞

ボルールコミュニティは CMB がピラーン族支援を始めた 1960 年代からの中心地です。ドイツ(アメリカ?)の援助で建てられた六角形の校舎やその他は 30 年余り経てかなり傷み、雨漏りがひどいので、新潟国際協力ふれあい基金の助成金と香川県の矢野さん(チボリ国際里親の会会員)のご協力で補修が行なわれました。

CMB の計画では、ボルールの初等教育は 1999 年度には政府に移管し、ここはピラーンの青少年の中等教育機関として技術専門学校などに利用される予定になっています。

∞ 20 名の教師・スタッフに一律約 15,000 円ボーナスが支給されました ∞

新潟・国際協力ふれあい基金の助成をいただき、厳しい勤務条件のもと、公立の 3 分の 1 以下といわれる給与で働く CMB の教師に、クリスマス前の 19 日に特別手当が支給されました。10 名余りの先生方から届いた手紙のうち 1 枚を紹介いたします。

HANDS の皆様へ

ノノイ神父とパート神父から特別手当支給の知らせを受けたのは 12 月初めでした。その喜びといったら何と表現してよいかわかりません。私達にとってそんな大金を一度に手にするのは始めてでしたから。しかも、新潟基金は本当にいいタイミングで、私達がもしお金があればと思っていたちょうどその時に援助して下さったのです。(中略)

私はこの臨時収入で子どもの授業料を払うことが出来ました。皆様のご支援で家族はこの 1 年本当に助かりました。今後ともピラーン族のためにご支援をいただければ嬉しく思います。どうぞ新潟基金の皆様によろしくお伝え下さい。主の恵みが皆様の上に豊かでありますように。

3 月 11 日

エドナ・ポリティカル

新潟国際交流協会へは事業完了報告のなかで教師達の感謝を伝えました。

∞ アトゥモロックの近況より ∞

アトゥモロックは、サムラングから歩いて 3 時間(私達)~1 時間半(住民)かかります。前回お知らせしたように、熱のある時などサムラングのクリニックにいけません。インフルエンザが流行したこの 12 月も大変でした。前号でお知らせしたように、幸い会員の笠井さんのご協力を得て医薬品を一部アトゥモロックにも置くようにしました。今、2 人のヘルスワーカーをガルシア医師が育ててくれています。2 月には初めて無料巡回診療が実施されました。

さらに、住民達は、各世帯月額 30 ペソ出して、5,000 ペソまでの医療費を無料で受けられるようにと医療互助組合のようなシステムを発足させました。これをさらに拡大してサムラングと同じ多目的互助組合設立のため、今回郵政省のボランティア貯金配分を申請しました。

なお、アトゥモロックの羊・山羊飼育と簡易水道建設に関するかながわ民際基金助成は、今回見送りとなりました。現地支援組織がミッションという点で審査委員の議論が分かれたそうです。

申請事業のうち、水道は干ばつ対策で急がれる課題だったため、一部の会員のご協力を得て HANDS の支援事業として実施を決めました。ご了承ください。